おいでん・さんそんSHOW

「まちとむらをつなぐ」おいでん・さんそんセンターの活動をご紹介！

12月号
2014.12.22発行

いなかとまちの文化祭

まちなか
MACHINAKA

この10年をベースにもっと良い豊田市に

11月30日(日)に、「第3回　いなかとまちの文化祭～こころを耕す暮らしのマルシェ～」が開催されました。いなかをフィールドに活動する団体が豊田市駅前に出向き、豊かな山里の魅力をアピール。出店者はまちなか、旭、小原、稲武、下山、足助、そして長野県根羽村からも集まりました。

マルシェでは若手農家の新鮮無農薬野菜や加工品、鮎や猪、五平餅など山里ならではの味に加え、地元の食材を使った手作りのお弁当、温かいスープや豚汁、おいしいコーヒーに焼き菓子、手作り雑貨などが並びました。体験ブースも充実し、薪割り体験、豊田や根羽村のスギ・ヒノキを使ったクリスマス飾り、表札など木工品作りも大人気でした。

今回のメイン企画でもある、鈴木公平・前豊田市長と鈴木辰吉・おいでんさんそんセンター長による「山里の10年を振り返るシンポジウム」では、両氏の熱い想いを聞くことが出来ました。

（鈴木前市長）「僕はこの10年間振り返ってみますと、都市と農山村との交流も含めて、本当に多くの方が活躍されてきて、まだ大きな成果ではないですけど、ああいいな、と思うような事柄が、それぞれの地域で出てきているような気がしているんです。この10年をベースにして、さらに新しい10年に向かって皆さんが継続して取り組んでいただければ、もっとよい豊田市ができるのでは。そう信じたいと思っています。」

（鈴木辰吉センター長）「田舎にIターンしたい人たちは、田舎だから来たいと感じ、都市では得られないものを田舎で得たくて来る。これからの行政も含めた過疎化対策というのは、田舎をより田舎らしく磨き上げることだと思います。おいでん・さんそんセンターはそういうスタンスで取り組んでいきたいと思います。」

「いなか」と「まち」が共存する豊田市。合併10周年を迎える今、これからの更なる盛り上がりを予感させる、活気あふれるイベントとなりました。

農山村のここが 好きなんでSHOW

このコーナーでは、おいでん・さんそんセンターの活動を支える「プラットホーム会議」のメンバーが、農山村で気に入っている「場所・コト・モノ」などについて語ります。

今月の語りすと

豊森なりわい塾　事務局
中川　恵子

こんにちは！「豊森なりわい塾」事務局の中川です。私は海沿いの平坦な田舎町で育ち（ウン十年前ですが‥笑）、今は名古屋に住んでいます。私が農山村に最も心惹かれるのは、人や動物や木々や植物が大地の上でいっしょに生きていることがよく分かるコト。そして、農山村に住むお年寄りたちの生きる智恵や自然に培われた逞しさに触れたときに素直に湧き上がる「すごいなぁ」という素朴な感情。街にいると、まるでシステムの上で人間だけが生きているかのよう（錯覚！）。農山村には抱える課題も多々ありますが、自然界とつながって生きる、そんな当たり前のことを思い出させてくれるコトが好きです。

「豊森なりわい塾」も、そんな気づきを未来のフツーにつなげる架け橋であればいいなと思っています。

※豊森なりわい塾…公募で塾生を募集し、農山村をフィールドに、これからの生き方、働き方、社会のカタチを考える塾（http://www.toyomori.org）

地元学を受ける豊森なりわい塾の塾生たち

イベント情報

春の七草がゆを味わう会

- 日時：1月6日（火）、7日（水）9:30～14:00
- 場所：松平郷園地
- 参加費：250円（当日おいでんバス利用者は200円）
- 定員：各先着千杯（当日直接会場）
- 問合せ：松平郷ふるさとづくり委員会(0565)58-1629

足助八幡宮七草粥

- 日時：1月7日（水）11:00～14:00
- 場所：足助八幡宮境内
- 参加費：無料
- 定員：なくなり次第終了
- 問合せ：足助観光協会(0565)62-1272

旭高原げんき村雪そりゲレンデオープン

- 日時：12月6日(土)～3月31日(火)9:00～16:00
- 場所：旭高原げんき村（豊田市旭八幡町根山68-1）
- 内容：人工造雪機による幅30M×滑走距離100Mの広々ゲレンデ。ソリ専用ゲレンデなので小さいお子様から大人まで安心して楽しめます。滑り終えると頂上まで「動く歩道」が連れて行ってくれます。雪遊び広場やちびっこゲレンデも併設しています。
- 料金：入場料500円（3歳以上一律）　400円（団体20名以上）
  レンタルそり500円（1台/日）　400円（団体20名以上）
- その他：滑った後は、レストランげんき亭で温かい食べ物をどうぞ。宿泊施設もありますので、グループでの利用もお勧めです。
  げんき村HP http://www.asahikougen.co.jp/index.html
- 問合せ：(株)旭高原
  (0565)68-2755木曜日を除く(9:00～17:00)

その他の情報は、センターHPをチェック！
http://www.oiden-sanson.com/event/

センター長のミライのフツーに向かって！

センター長　鈴木辰吉

空き家

空家対策特別措置法が成立、3ヶ月以内に施行される。全国に820万戸（13.5％）ある空き家のうち、管理が不十分な空き家が生活環境に悪影響を及ぼすことへの対策法である。

私の暮らす旭地区敷島自治区で、向こう10年に新たに発生する空き家とその管理について全戸（330世帯）にアンケートを行ってもらった。（「私と家族の将来像」アンケート、平成26年6月実施）その結果、「空き家になるかもしれない」世帯が23％、その空き家を「売ったり貸したりしない」世帯が75％であることが分かった。

藤岡地区を除く農山村地域全体（約8,200世帯）に置き換えると、向こう10年に新たに約1,800戸の空き家が発生し、約1,400戸が空き家のままという状態が推測される。現状の空き家率約8％（市全体）を考え合わせると、5軒に1軒が空き家のままという、まさに消滅に向かう農山村の風景が目に浮かんでしまう。

価値観の変化とともに「農村回帰」が起こりつつあり、空き家の流通でミライの農山村の風景は大きく変えられるはずである。

貸すことを前提に建てられていない空き家を貸さない家主にはそれぞれの事情や想いがあり非はない。空き家の撤去に主眼が置かれた特別措置法から一歩踏み込み、家主に寄り添った空き家流通の枠組みづくりが急務と思う。

豊田市 企画政策部 企画課　おいでん・さんそんセンター
〒444-2424 豊田市足助町宮ノ後26-2（足助支所2階）
TEL：0565-62-0610（直通）　FAX：0565-62-0614
MAIL:sanson-center@city.toyota.aichi.jp　おいでん・さんそんセンター　検索
開所時間：午前8時30分～午後5時（土日祝日・年末年始除く）

ユネスコスクール世界大会「地域交流会」

足助 ASUKE

11月4日(火)、新盛町にある里山くらし体験館『すげの里』は、ドイツ、オマーン、ハイチ、タイの高校生と教師、豊田東高校の生徒などで国際色に彩られました。

これは、11月10日～12日に愛知県で開催された「ESD(持続可能な開発のための教育)に関するユネスコ世界会議」に先立って、岡山県で開催された「ユネスコスクール世界大会」の地域交流会が、ホスト校である中部圏代表の豊田東高校のある本市で行われたものです。おいでん・さんそんセンターが農山村地域での体験・交流をコーディネートしました。

生徒たちは「すげの里」の囲炉裏を不思議そうに覗き込み、二階の障子を開け閉めし、薪ボイラーを覗き、田んぼに残った稲にも興味津々でした。また、日本に昔から伝わる稲作について足踏み脱穀機、唐箕(とうみ)などを体験し、近代的な農業機械の原理を学んで、かまどの炊き立ておにぎりを皆で頬張りました。

高校生達は、食糧や環境の問題を地球規模で考える大人に育ってくれるでしょう。

稲作について説明を受けた後、ご飯の味見をする生徒たち

梅坪・京町水辺愛護会x笹戸自治区

旭 ASAHI

川でつながるいなかとまち

11月9日(日)、川を通じた都市と農山村の支え合いがスタート。

旭地区笹戸自治区の河川護岸の草刈り作業に、梅坪・京町水辺愛護会の13名が揃いのユニフォームで応援に駆けつけてくれました。

高齢化で河川環境整備に困難をきたしてきた笹戸自治区と篭川などの河川敷で月2回の草刈り作業を行う青壮年のボランティアグループ梅坪・京町水辺愛護会をおいでん・さんそんセンターがマッチングしました。

草刈は、這って登るほどの急斜面に葛の蔓がびっしりと生い茂る難易度の高い現場。しかも途中から雨という過酷なコンディション。しかし、応援隊は流石に精鋭揃いで、自治区の人々とあうんの呼吸で全長約300メートル、幅約30メートルの草刈りを2時間半で完了。

河川愛護という共通目的、共に汗を流した仲、雨で冷え切った体に熱々の豚汁が振舞われ、ほっこり気分で意気投合。年に1度と言わず2度、3度と応援に駆けつけるとの声も聞かれました。

川でつながるいなかとまちの支え合い。これからもどんどん広げたいと思います。

梅坪・京町水辺愛護会のみなさん

おいでん・さんそんセンタースタッフミニコラム

おいでん・さんそんセンターのスタッフが“いま”感じていることを紹介します！

File2. 次世代につなぐ言葉たち

11月30日「いなかとまちの文化祭」で行われた、鈴木前市長と鈴木おいでん・さんそんセンター長の対談。

長く豊田市を見つめてきた思いの込もる言葉の中より。前市長の「(過疎地の)人の心にどう共鳴し、共感していくかが、地域を永らえることの一番のキーワード」。

暮らしには白黒つかない、様々な思いが蓄積されています。耳を傾け思いを馳せることの大切さ。

センター長の「田舎をより田舎らしく磨き上げる」。山里に住む人たちの、地域への自信と信頼感。

過疎の問題は人生観をえぐられる深い問題です。とても尊い課題に日々向き合わせて頂いていると思います。

コーディネートスタッフ
小黒 敦子

このマークがついている記事はおいでん・さんそんセンターが関わっています。

【12月号　2014.12.22発行】　おいでん・さんそんSHOW　http://www.oiden-sanson.com

「しきしま　ときめきプラン」講演会・公開討論会

旭 ASAHI

空き家だらけの未来にしないために

旭地区の敷島自治区では、自治区の将来ビジョン「しきしま♡ときめきプラン」を策定しています。11月22日(土)にその素案を検討するための講演会・公開討論会が行われました。講演会でお話しされたのは、旭地区・笹戸町に空き家を借りて東京との行き来をされながら、竹を活用する事業をしているトム・ヴィンセント氏。

「日本は高齢社会の課題先進国と注目されていて、その動向が注視されている。田舎は日本の未来の最前線。日本の田舎はこれからそんなに時間をかけずに脚光を浴びて、皆が憧れる場所になるから田舎の方はぜひ頑張ってほしい」とエールを送られました。

地元の幅広い年代の男女、都市部在住で敷島自治区に関わりのある方など様々な立場にある12名の公開討論会では、アンケート結果から今後増え続けることが予想される『空き家』に関して次のような発言が聞かれました。Iターン者からは「地元の方が、空き家の大家さんに交渉してくれると、見ず知らずの人が問い合わせるよりも効果がある。」、都市部在住者からは「空き家バンクには登録しているが、どうやって空き家を見つけて、修繕したらいいのかわからない。」、Uターン予定者からは「土地さえあれば家なんて簡単に建つ、と思っていたが、土砂災害のレッド、イエローゾーンだから駄目。使っていない田んぼは農振農用地で駄目。土地はあっても、家を建てることは大変。「空き家」は効率的な選択だと思う。」など様々な意見が出ました。

プラン策定委員長の「私たちが子どもたちのために今できること。それはしきしまを暮らしの場として守り抜くこと」の言葉が印象に残りました。：空き家だらけの未来にしない：ために着実に動いている敷島自治区の今後に注目したいと思います。

基調講演はトム・ヴィンセント氏

「里楽暮楽しもやま会」勉強会

下山 SHIMOYAMA

11月28日(金)、下山地区の定住促進組織「里楽暮住(リラックス)しもやま会」の勉強会が開催されました。おいでん・さんそんセンターからの話題提供に続いて行われた意見交換会では、「定住計画や集落カルテも策定したが、他地域に比べて危機感が少ない」などの意見が出され、今後も勉強会を継続していくことが確認されました。

勉強会のために集まった下山地区の皆さん

第６回とよたビジネスフェア

第6回とよたビジネスフェアに、おいでん・さんそんセンターが出展します！
日時:1月14日(水)15日(木)10:00～17:00
場所:スカイホール豊田 （豊田市八幡町1-20）
　　大・中会議室
内容:都市と農山村の交流に関する相談など
その他:入場料無料のセミナー・講演会あり
問合せ:豊田市商工会議所　産業振興部　担当:前田
受付時間　月～金曜日(休祝日・年末年始を除く)
8:45～17:30　Tel:0565-32-4594　Fax:0565-32-1000
e-mail:　maeda@toyota.or.jp

味噌づくり体験参加者募集

日時：1 月 25 日（日）9:00 ～ 14:00 頃
場所：敷島会館（豊田市杉本町奥西山 49）
参加費：1 人 4,000 円（昼食代や材料費、出来上がった味噌5kg の費用など）※食事のみをご希望される同伴者の方は、1 人 500 円。ただし、幼児は無料
定員：10 名（応募多数の場合は、抽選。また、これまで参加したことのない方を優先）
プログラム：①味噌作り②昼食
申込期限：1 月 19 日（月）
申込先：愛知県交流居住センター（担当：加藤栄司）
Tel：052-232-1750　Fax：052-232-0020
e-mail: kato@chimonken.or.jp
【申し込みの記載事項】1. お名前 2. 年齢 3. ご住所 4. 電話番号 5. 参加人数 6. メールアドレス